

# そよかせ

令和2年2月発行  
第1号

徳島県立国府支援学校  
地域支援課

「地域支援課便り」は、特別支援教育をご理解いただき推進していくために発行していきます。初回は、本校で行われた夏季公開研修会の内容をお知らせします。

「二次障がい予防のためにできること」 講師；和歌山大学 武田鉄郎教授

目的 障がいによる学習上または生活上の困難があり、二次的に心身症や行動上の問題、適応の問題を抱える子どもたちが学校現場で増えている。二次障がい予防のためにできることを学ぶ。

## 二次障がいとは・・・

発達障がいの子どもが、幼児期からの日常生活や集団生活の中で、自尊心を低下させ、情緒的に不安定になったり、問題行動を起こしたりすること。

+

愛着に問題がある場合も可能性として考えていく必要がある。

周りにいる大人に注意をひこうとする子どもに対して「しつけ」ようとして事態が悪化するのであれば、問題行動を愛着の発達が遅れているものと判断し、「叱るよりもむしろ安心させてあげる」ことが必要である。

これは決して甘やかしてではない（神尾他,2008）。

## 叱る（罰）の副作用

- ・罰を与える人に反発心や抵抗心を持つ。
- ・罰を与える人との人間関係が悪くなる。
- ・何をしたらよいか、罰だけではわからない。

→罰は効果的な方法ではない。  
（体罰・言葉の暴力は子どもの脳を傷つけることがわかっています。友田ら,2009）

→危険なことをする場合は本人にわかる形で注意する。

どのような子育てや指導法がよいか

## 提案・交渉型アプローチ

（裏面をご覧ください。）



○合理的配慮が適切になされていれば、問題行動や二次障がいは起こらない。

○アタッチメント（愛着）  
幼児期にアタッチメントが十分に得られないと「自己（自尊心、自立心）」と「社会性（共感性、おもいやり、協調性、規範意識など）」にかかわる。

○「厳しくすればよくなる」という考えは間違い！  
変更していく必要がある。



# 『提案・交渉型アプローチ』とは、叱らないけど譲らない支援！

子どもが〇〇をやりたいがらない

どうしていますか？

× 叱ってやらせる

× 放っておく  
言うとおりにする

○ いくつかの方法を  
「提案」「交渉」

自己決定で成功体験

自尊心が育つ！  
「できる」がもっと増える！！

## 提案・交渉型アプローチ

→ 子どもの主体性や自主性が伸びます。  
子どもが「選択」できる力量がつけます。  
自尊心、自己効力感が高まります。  
やる気がでます。

## 「できる」を増やすアプローチの方法

(障がいに関する専門的なことは知らなくても、改善する方法)

- ・絶対に、怒ったり、叱ったりしない。
- ・否定的なことは言わない。
- ・交渉のテーブルにのらないという人は、後出しアプローチが有効  
(提案・交渉型アプローチのポイント)
- ・不安を軽減してくれる。
- ・自尊心を高めてくれる。
- ・自信を高めてくれる。

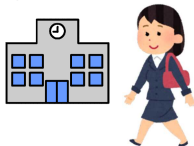
## 提案・交渉型のアプローチのポイント（関係性の中で成立する）

- ①子どもの行き詰まり感を理解し、共感する。
- ②子どもの心の中であって、うまく言語化できない本当の気持ちや考えを引き出すこと。
- ③学習内容や活動内容を分析する。
- ④提案と交渉を進めるのは教師や保護者。でも選択と決定権は子どもにあり。
- ⑤選択・決定のあとのサポート。
- ⑥先出しではなく、後出しで交渉のテーブルにのる。



国府支援学校地域支援課は、特別支援教育のセンター的機能の充実を図ることを目的としています。地域の学校等を対象に、

- ①巡回(出張)相談、②来校相談、③研修支援、④教材・教具支援などを行っています。



詳しくは、本校  
ホームページを  
ご覧ください。

お気軽に、ご相談ください。

徳島県立国府支援学校

TEL 088-642-4055